

				部会名	人づくり・地域づくり部会
施策No.	3-3-2	施策名	青少年の社会教育	施策主管課	生涯学習課
施策の目指す姿		地域社会の中で、自立した青少年が育っています			
<p>■ 施策評価シート(平成28年度実績評価)について</p> <p>① 施策を構成する事務事業の評価・検証について</p> <p>●「4 施策を構成する事務事業一覧」の「施策への貢献度」の評価が的確に行われているか。 いずれの事務事業も複数の取組で構成されており、一覧を見るだけでは事務事業の内容の全体像がわかりにくい。そのため、2つの事業の直結度や貢献度の評価が的確なのか判断できない。直結度や貢献度の的確性以前に、事務事業の括り自体が的確でない。例えば青少年活動推進事業については、「成人式の実施」、「こどもの集い」、「おもしろ探検隊の開催」、「青少年関係団体支援」など事務事業の下にある各取組それぞれの施策への直結度評価も行うべきである。</p> <p>●「5 施策を構成する事務事業の検証」が的確に行われているか。 例えば「こどもの集い」や「おもしろ探検隊」に類似する取組はコミュニティ単位でも行われており、市の事務事業によるものが唯一無二という訳ではない。「効果的・効率的な行政運営の推進」や「コスト意識の徹底」を実現するためにも、他の主体による類似の取組をきちんと把握し、市の施策や事務事業でなければならないこと(市の役割)を見極めた上で施策や事務事業を設定すべきである。</p> <p>「さらに成果の向上を図る事業はないか」の1つ目の内容(生涯学習事業、先人顕彰、芸術文化、スポーツ等との連携による青少年育成が必要)は、施策評価シートの他の欄や事務事業評価シートの内容を見ても根拠になる記述がなく、的確な検証が行われているとは言い難い。加えて、青少年育成の内容についても、どのようなものを想定しているのか具体的な内容が記載されていない。</p>					
<p>② 施策の成果指標及び達成状況の分析について</p> <p>●「3 成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」の分析が的確に行われているか。 読み手の立場で見ると、背景・要因の根拠が不明確であり、論理もわかりにくい部分がある(例:「少子化の進行や若者の転出者の多さ」と「青少年の関わりが見えない」のつながりや、「核家族化の進展」と「保護者や青少年の多忙化」のつながり)。そのため、分析が的確に行われているとは言い難い。</p> <p>成果指標の1つ「地域の行事やボランティア行事に青少年が参加していると思う市民の割合」に用いられている市民アンケートは、青少年自身と接点を持たない人を含んだ主観的評価であり、施策の目指す姿「自立した青少年が育っている」を把握する上で適切でない。青少年自身が育っている状況を客観的に測れる指標を用いるべきである。</p>					
<p>③ 施策の総合的な評価について</p> <p>●「6 施策の総合的な評価」が的確に行われているか。 2つの課題のいずれも、成果指標の達成状況や事務事業の検証を踏まえた記載になっていない。特に課題の1つ目は、成果指標の分析や事務事業の検証を踏まえていないために、読み手の立場から見ると、社会で一般的に言われていることが書かれているだけで、市としての課題が提示されているように見えない。結果的に同じ趣旨の内容が市の課題として導き出されるとしても、その背景や根拠(成果指標や事務事業の検証など)をきちんと示すべきである。</p> <p>今後の方向性書かれている「機会を設ける」、「意識の醸成を図る」、「連携した活動を行う」については、既存の事務事業の成果向上を図る話なのか、新たな事業を設定する話なのか、具体的な方向性が不明であり、課題に対する方向性の記載として適切でない。</p>					
<p>④ シート記載内容について 事務事業一覧の「事業内容(実績)」の記載は、各事業の重要ポイントや全体像が分かりやすいようもう少し詳しく書くべきである。事務事業評価シートを細かく読み解かないと事業の要点が把握できないのは、施策の実績を取りまとめるシートのあり方として適切でない。</p>					